



JCE7 実行委員会・開催地委員会のメンバー (2021年6月・第36回 JEA 総会会場にて)

第七回日本伝道会議 (2023年) に向かって

第7回日本伝道会議 (JCE7) は2023年9月19日 (火) ~ 22日 (金) 岐阜市・長良川国際会議場をメイン会場として、開催される予定です。今年は開催の前年となります。JCE7の目的は、日本の教会の協力態勢を整えて、イエスキリストによって与えられた福音宣教の働きを前進させることです。

1974年に京都で行われた第一回日本伝道会議の記録を読むと、先輩たちの熱さが伝わってきます。「日本をキリストに」というテーマのもとで、「私たち聖書信仰に立つ者は、福音を全世界に伝えるべき大使命に対して忠実でなかったことを認めざるをえない」(「京都宣言」前文)と悔い改め、「聖書信仰に立つ私たちは、教会の使命を遂行するため、全き献身と御霊による一致・協力が求められていることを告白し、宣言」(同四項)しました。そして、「伝道の具体的な協力については、今後、日本福音同盟において、さらに探求する」(同五項)と謳われています。

それから50年経とうとしています。私たちはそこで語られたような態勢をつくり目標や戦略を共有して福音宣教に取り組むことができたかと言えば、そうは言えないのではないのでしょうか。社会と教会の成長期にあってはそれぞれの成長に主眼が向き、下降期に入ってからはお互いの状況が大変でそれどころではないということでしょうか。

宣教のためにその地にある教会が協力して取り組む。このことは、今さら声を上げて語るべきことではないでしょう。大切なことは、では、それをどのように取り組むのか、です。そ

の具体的な計画がなければ、かけ声はいつも右から左に流れていくだけに終わります。JCE7では、その目標と戦略を「宣言」に表し、それぞれの地域や団体にどのように適用していくのかを話し合い、共有し、互いのために祈りたいと願っています。



小平牧生
JCE7 実行委員長
基督兄弟団

そこで、まずお願いしたいことがあります。それは JEA 加盟教団、諸団体が、JCE 協力団体に登録していただくことです。JCE7 本会議の参加人数は、各協力団体に事前に割り振られます。それは、できるだけ多くの教団・団体、地域から参加していただくことによって、広い宣教協力を進めるためです。そしてできるだけ早く参加者を確定することによって、当日にむかって事前の会議を充実させ、より深い宣教協力を進めたいからです。

また、それによって効率的な事務運営をすることができます。いわゆる異端的な団体から参加者を受け付けないこと、当日申し込みを行わないことによって会場費を安くすることなども大切な点と考えています。

すでに、「宣言」作成の基礎資料となる調査が始まっています。JCE 7 協力団体に登録していただき、これらの事前の取り組みから参加していただきたいと願っています。どうぞよろしくお願いたします

目次

巻頭言	1
宣教フォーラム福島 2021 2 宣教研究部門	
宣教フォーラム福島 2021 3	
流れのほとり	4-5
牧師の本棚「教会法」 信教の自由セミナー	6
青年委員会	7
JEA アップデート 総務局から	8

JEA 宣教フォーラム福島 2021 報告

吉永輝次 宣教委員
異文化宣教ネットワーク部門
勝田聖書教会

「福島で何があったのか」→「フクシマと共に生きるとは」→「フクシマから問う」



フクシマに関わる JEA 宣教フォーラムのテーマは、この 10 年で上記の様な変遷をたどってきた。それは、フクシマの必要そのものへの応答であり、同時に、フクシマに関わるキリスト者とキリスト教会とが聖書的、根源的に関わる際に生まれ出る「キリストの弟子の生き方」そのものでもあった。

そして、今回のテーマは「これまでのフクシマと、これから」であり、東日本大震災後 10 年の経過と、正に今後を問うものであった。フクシマのこの 10 年の検証のために、JEA 宣教委員会として初めて、クリスチャン以外の講師を迎え、語っていただいた。これからの宣教の課題として、基調講演に吉持日輪生師、「座談会」および「五つの祈り」の講師として木田恵嗣師・西小野健師・野寺恵美師・西岡義行師を迎えた。また 1 日目の夜には JCE7 につながる 12 の「プロジェクト分科会」を開いた。

全面オンラインの開催であり、配信会場は須賀川シオンの丘であった。登録者は全体で 255 名、福島から 55 名の参加者があった。また 30 名近い神学生の参加があったことも今後

の日本宣教にとって大きな希望であった。PBA 等の協力の下、大きなトラブルもなくネット配信をすることができたことも感謝だった。福島フォーラムの実行委員会の先生方、須賀川シオンの丘のボランティアスタッフの陰表の奉仕に支えられ、良いフォーラムを開催することができた。

筆者は、その準備段階から参加出来なかったが、フォーラム発信の現場に二日間居らせて頂き、一人の参加者として次の様な感想と示しを与えられた。

1. 福島には 10 年前から福島県キリスト教連絡会 (FCC) という教派を超えた「教会ネットワーク」があり、これが今も機能しており、今回のフォーラムでもその恵みに与った。大震災時、須賀川シオンの丘は避難所となり、その後、被災地支援基地としても用いられた。そこでは FCC というネットワークが十分に機能した。人と教会を繋ぐネットワークは今後の宣教の働きに、なくてはならないものになるはずだ。そして更なる教会の課題は、教会ネットワークと一般社会をどの様に繋いでいくか、ではないだろうか。
2. 個と全とが有機的にキリストをとおして繋がる恵み。「福島からの五つの祈り」に表われている様に、福島からの、福島のための祈りではあるが、そこに徹する事で、その祈りは私の祈り、我が教会の祈り、そして、世界に満ちる神の教会の祈りとなった。下手をすると自己満足で単なる個人主義的になり兼ねないが、キリストと神のことに開かれているゆえに、個人的かつ普遍的祈りとなった。フォーラム後もこの祈りがある。

JCE7 データブックの発行に向けて

飯田勝彦 宣教委員
宣教研究部門
日本イエス・キリスト教団幌向小羊教会

現在、宣教研究部門は「データブック 2 (仮称) (以下「データブック 2」) の発行に取り組んでおります。2016 年に開催された JCE6 では「データブック日本宣教のこれからが見えてくるーキリスト教の 30 年後を読む」を発行しました。「データブック 2」は、その内容をさらに発展させたもので、2023 年の JCE7 開催前 (6 月) に発行を予定しています。

具体的には前回提示した課題について、さらなるアンケート調査、インタビュー、文献紹介などを行い、コロナ禍とキリスト教会 (神が与えられた機会として)、教会のグローバル化としての在日外国人と在日外国人教会、また海外の日本人と海外日本人教会、取りこぼしのない地方宣教、次世代宣教、現代の異端の動向と対応、教会のデジタル化、AI 化、教会の再生と完成などを取り上げていきます。そしてこれらの検討を踏まえて、東海宣言 (現在 JCE 7 プログラム局や、宣言文作成チームから各教団教派、宣教団体に依頼されている) の完成版を取り上げ、JCE8 を目指す「これから」について、書き下ろす章

を設ける予定です。

東日本大震災やその後も多発する自然災害、またパンデミックなどで日本社会はもちろんのこと、日本宣教の環境も大きく変化しました。少子高齢化、貧富の格差など刻々と変化する社会の中でどのような宣教のあり方が求められているのかを改めて「データブック 2」を通して提示し、日本宣教が拡大することを願っております。特に、今回は、JCE7 のテーマ (終わりから始める宣教協力) に沿って、何を終わらせ、何を始めていくのかを明確にするような内容にしていこうと予定しています。

昨年は、お忙しい中「コロナ禍におけるアンケート調査」にご協力いただきありがとうございました。これからも、宣教研究部門より、追加アンケート、インタビュー等、依頼があるかと思いますが、大変お手を煩わせることになるかと思いますが、何よりも、実効性のある提言および現状理解を皆様と共有するために、ぜひご協力いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

JEA 宣教フォーラム福島で問われたこと

高橋拓男
JEA 宣教フォーラム福島実行委員長
ミッション東北・会津聖書教会

2021年1月に「東日本大震災から10年となるこの年、福島で宣教フォーラムを開催しませんか？」と宣教委員長の中西雅裕先生から打診をいただき、更に「今回は『参加者を集める』ということは重視せず、『福島』というテーマに特化してよい」との熱い助言もあり受諾することとなりました。



宣教フォーラム福島2021の配信会場（須賀川シオンの丘）に集まった講師、奉仕者、参加者

前年のJEA宣教フォーラムでは「新型コロナウイルス感染」という普遍的、実際的なテーマが取り上げられたのに対し、今回は非常に限定的な「福島」というテーマを掲げ、「これまでのフクシマと、これから」と副題をつけて、準備委員会をスタートしました。

今回の宣教フォーラムには2つの大きなチャレンジがありました。一つ目は「クリスチャンでない方を講師に迎えた」ということです。集会Ⅰに「プロメテウスの罠」の著者のお一人、本田雅和氏を、また震災後から南相馬を中心に取材を続けている渡辺一枝氏をお招きしました。なお、ファシリテーターはクリスチャン・ピアニストの崔善愛（チェ・ソンエ）氏にお願いをしました。

これらの講師陣を迎えたのは、客観的な視点から福島の現状を理解し共有するためでしたが、アンケートを読むと「今まであまり聞いたことのない新鮮な話だった」との回答が多く見られました。講師の先生方にそのことをお伝えすると「キリスト教会は教会の中だけで生きているのですね」と、本質を突かれたようなご指摘を受けました。



渡辺一枝氏による福島の報告

本田さん、渡辺さんの文字通り命を懸けて被災者と関わっている姿、そしてそこから発せられる言葉は、私たちクリスチャンの内向きで、ともすると自己満足に陥りやすい姿に光を充てるものではなかったでしょうか。

そして2つ目のチャレンジは「集会Ⅱ・Ⅲを通して5つの祈りを残した」ということです。講演だけで終わるのではなく「祈り」を残すフォーラムとなるように、5人の先生方に「200文字以内」という条件で、福島（更には日本各地の被災地）のための祈りを執筆していただきました。



ファシリテーターの
チェ・ソンエ氏

アンケートを見ると、この集会Ⅲが最も評価が高かったように思います。講師の先生方が紡ぎ出された祈りの中に、『『良きサマリヤ人』の祭司やレビ人のように、見て見ぬふりをして向こう側を通り過ぎる者となっているこの私をおゆるし下さい』という祈りがありました。

個人的には、そのような祈りこそ東日本大震災から10年が経つ今、私たちが献げるべき祈りではないかと感じました。集会Ⅰの本田さんや渡辺さんから、「キリスト教会に求められるもの」として語られたのも「祈り」でした。



集会Ⅲ「フクシマから5つの祈り」右から司会の永井敏夫氏、講師の木田恵嗣氏、西小野健氏、吉持日輪生氏、西岡義行氏、野寺恵美氏

今回の宣教フォーラムで生まれた5つの祈りを、現実の理解と現実との関わりの中で深めていくこと、それこそが私たちクリスチャンがこの世界から期待されている役割なのでしょう。



須賀川シオンの丘では、感染対策をしつつ、温かくて美味しいランチが参加者に振舞われました。

第7回かたりばオンラインに参加して

2021年10月14日、講師に日本長老教会・千住キリスト教会の堆朱光良(ついしゅ みつよし)さんをお招きして第7回「かたりば」オンラインが開かれました。

堆朱さんはご両親が始められた『給食伝道礼拝(路上生活者支援)』と、ご自身が始められた『子ども食堂』の働きをなさっています。

『給食伝道礼拝』は、荒川千住新橋の下で焼き出しをされています。そこに集われる方々と共に歩き続けようとする姿勢と「この礼拝が終わること(つまり、路上生活者がいなくなる社会になること)が目標です」と言われたことが印象的でした。

『子ども食堂』については「物質的ニーズよりも精神的・時間的ニーズが求められています。また子どもだけでなく保護者のサポートも必要なのです」というお話に、現代の問題が浮き彫りにされているように感じました。

「他の人の励ましを必要とし、助けてもらうことは恥ずかしいことでしょうか？」という問いかけがありました。これは堆朱さんご自身が受けられた試練に、この二つの働きに集われている方々から多くの励ましと助けをいただいた経験が関わっています。互いの存在を喜び合い、サポートし合えることはなんと幸いなことでしょうか。私たちは、今日サポートする側であっても、明日はサポートされる側になるかもしれないのですから。そして誰かを支えることができることは、すべての人に与えられている神さまからの喜びであることを思いました。

堆朱さんご自身が神さまに愛され、そこからあふれ出る愛から人々を愛しておられるのだということが伝わってくる、温かで感謝な集会でした。



「かたりば」はJEA女性委員会が、年4回、さまざまな分野で活躍されている女性ゲストをお迎えして、お話を伺う集会です。コロナ禍が続く中ですが、ひととき、皆で集まって語り合しましょう。主にある女性として共に学び、分かち合い、祈り、つながりましょう！
詳しい情報は、JEA ホームページをご覧ください。

かたりば特別編(JEA 宣教フォーラム福島)
女性委員会分科会報告寺村真弓 女性委員
インマヌエル板橋キリスト教会

2021年11月24日(水)午後1:00~3:00、「宣教フォーラム福島」分科会として「かたりば特別編～しゃべっぺ!きくべ!福島のこと」が開催されました。オンラインで36名の参加、他にアーカイブの申し込みもありました。

福島で原発事故を経験されたある女性が「災害の現場では時間が経つにつれ、女性の存在がなかったことにされがちである」「被災や支援の経験を語る声があいつの間にか男性のみになっていく」と書かれていましたが、表立ってメッセージを発信するのは男性になりがちな面があるかもしれません。その意味でも、今回3名の福島の女性(東京基督教大学修士

課程2年 木田友子さん・保守バプテスト同盟北信カルバリー教会牧師夫人 久場祥子さん・同盟基督教団勿来キリスト福音教会牧師夫人 住吉美和子さん)を講師にお迎えしてお話を伺うことができたのは、とても貴重な機会でした。

地震や津波、そして原発の事故という、誰も経験したことのなかった大きな災害とその後の10年間の歩み。ひとつひとつの体験を語る言葉にじっと耳を傾けながらその重さを噛みしめるようなひとときは、同時に苦難の中で人々を支え希望となられた主を実感する時でもありました。

アジア福音同盟（AEA）女性委員会 「グリーフケアセミナー報告」

岩上真歩子 女性委員
日本ホーリネス教団久喜キリスト教会

アジア福音同盟女性委員会のビジョンは、女性をエンパワーして、教会において女性のリーダーシップが目に見える形で認められていくことです。そのために、各国の代表者が活発な意見交換をし、取り扱われるべきテーマが次々と掲げられ、セミナーや大会が計画されています。

その中でも、最初に取り上げるべきテーマとして掲げられたのが、「グリーフケア」でした。新型コロナウイルスの感染下における様々な喪失の痛みは、各国共通の経験ですが、それだけではなく、教会において女性のリーダーシップが認められない故の喪失体験やそれに伴う痛みについても話し合われました。このようにして、2021年7月2日、「コロナ危機におけるグリーフケア（Grief Care during Covid-19 Crisis）」セミナー



の開催が決定しました。

セミナーは、18か国から215名が登録し、ズームでの開催となりました。AEA

女性委員長のグレース・ヒー氏（マレーシア）の司会の下、まず、賛美を通して主を礼拝し、その後、セミナーへと続きました。セミナーの講師は、岩上真歩子が担当しました。グリーフケアの基本について、また、新型コロナ感染下における喪失とグリーフケアの必要性について話しました。グリーフケアのモデルとして、エマオの途上の弟子たちと共に歩まれているイエス・キリストの姿に注目しました。キリストの愛を知るキリスト者が、イエスさまのようにグリーフケアを互いに行うよう励まし合いました。また、インドやフィリピンから、コロナウイルス感染

により、愛する家族や友人を亡くした方の真実なお証が語られました。その後、グループでの分かち合いの時には、それぞれが経験しているグリーフを共有し、共に祈る幸いなセミナーとなりました。



また、翌月の8月には、「キリスト教界における家庭内暴力」の問題を扱うセミナーが開催されました。JEA 女性委員会を代表して、日本の現状についても報告をしました。その際、DV被害者はもちろんのこと、加害者もまた様々なグリーフを抱えているため、この分野にもグリーフケアが必要であるとの見解を示しました。「キリスト教界における家庭内暴力」は、継続的に取り扱われることとなっています。さらに、「配偶者を亡くされた方々へのケア」など、教会が取り組むべき課題に次々と目を向け、イベントが企画されています。アジアの女性リーダーの方々から多くの刺激を受け、学ばせていただく機会が与えられていることを主に感謝します。今後とも、アジア福音同盟女性委員会の働きのために、お祈りくださいますようお願いいたします。

その後グループでの分かち合いがもたれました。男性も交えてのグループタイムは初めてでしたが良かったとの声が多く、今後は定例の「かたりば」でも（特別に配慮の必要なテーマ以外は）男性の方に全プログラムにご参加いただけるようになります。参加者からは「このような企画を、一度だけで終わらせないでほしい」との声も寄せられ、女性委員会として、今後も継続的に取り組んでいくことが出来ないかと考えています。



牧師の本棚

『教会法 その歴史的展開』

(エーリク・ヴォルフ、一麦出版社、1994年)

山田 泉 神学委員
ウエスレアン・ホーリネス神学院

随分前に手にし、すぐに放り出してしまったのですが、再び開く時が訪れて、今度は興味をもってポツポツと読みました。しかし相変わらず手強く読むのに苦勞します。この苦勞の理由として、まず日本語が難しいと思うこともあります。これが宗教改革の歴史の実際というものなのだ」と、つくづく思われる教会史の展開の繊細さ、カノン法・世俗法・教会法などの絡み合いの複雑さです。しかし、このデリケートな変遷を経て、今日に至るそれぞれの教会の存在につながるその道のりを丁寧に研究し提示してくれることに、敬意と感謝は尽きません。私にとって、そもそも「教会法」とは、カトリック専門の教科ぐらいの知識しかもっていませんでしたが、プロテスタントにおける教会法の存在とその歴史の変遷は、実に私たちが今置かれている教会について、政治的に、組織的に、信仰的に、教理的に、神学的に、運営的に等々、吟味し確認すべき大事な視点であることをこの本は気づかせてくれます。

原著は目次の倍以上の内容を有している大書で、ここで紹介した日本語訳(本書)は、原著の第2部と第4部です。本書の第1部には著者ヴォルフによる「教会法の特徴」が、また付録にはヴォルフの「法の神学」が記されており、注目すべき部分と言われます。

原著に記されたヴォルフの序言の一部を引用し、この書の紹介を閉じます。

「正しい教会は教会法をもっている。教会法の弁証法は、キリスト者たる実存のパラドックスの弁証法である。教会法の弁証法は教会の存在において己を自覚し、しかもそのうちに隠され続けている。

従って、教会法は、神の慰めの語りかけであるとともに人間の要求でもある。教会法は、自然的=理性的=歴史的な世界に存在するが、しかしそこに起源するのではない。教会が信仰において秩序づけ、裁き、司るならば教会は法のうちにある。教会がただ秩序づけ、裁き、司るだけで教会であると妄想するならば、教会は裁かれているのである。」



第33回信教の自由セミナー

小岩井 信 社会委員長
日本同盟基督教団・子母口キリスト教会

すでにご案内されていますように、第33回信教の自由セミナーが、オンラインで3月31日まで公開されています(昨年に続き、事前収録のネット配信という形になりました)。社会委員の児玉智継氏(JECA 布佐キリスト

教会牧師)が講師として発題し、それに対して他の社会委員がレスポンスするという形も昨年と同様となりました。発題のテーマは「東日本大震災から10年を契機に考える一利他的な生き方を目指してー」です。これは昨年11月23～24日に開催されました「JEA 宣教フォーラム福島2021～これまでのフクシマと、これから～」のプロジェクト分科会で児玉師が発

題したものがベースとなっています。

社会委員会としては「東日本大震災を巡る諸問題について」「福島に関する『現在進行形』の問題(原子力緊急事態宣言は今も解除されていません)について」やはり言及せざるを得ませんでした。そのような問題を、取って付けた様な付焼刃ではなく、又ただ正義を振りかざすようにでなく語る必要があるとの委員会内での意見を受けて、フォーラムの分科会と今回の信教の自由セミナーでの児玉師による問題提起となりました。

その要旨は以下のようなものです。「…3.11の原発事故は、『原発という犠牲のシステム』(高橋哲哉)を暴露しました。…原発などのリスクを限りなくゼロに近づけていく努力は必要だと思います。…新型コロナウィルスの感染拡大によって世界が危機に直面するなかで、『利他』という言葉が注目を集めています。そこで、この『利他』という言葉が契機に、東日本大震災をめぐる諸問題を考えてみたいと思います。…現代における

JEA 宣教フォーラム福島 2021

「青年宣教分科会の報告」

小山 望 青年委員
日本同盟基督教団・八千代聖書教会

青年委員の働きのためいつもお祈りをありがとうございます。コロナ禍により活動が制限され青年委員の会議もオンラインでの実施が続いていますが、2021年も主の恵みにより青年宣教の働きが守られ導かれましたこと感謝いたします。

「福島宣教フォーラム 2021」にて、青年宣教「事例報告と分かち合い」と題して青年委員で分科会を担当しました。西小野健師(郡山聖書バプテスト教会牧師)と森山剛師(キャンパス・クルセード・フォー・クライストスタッフ)のお二方を講師としてお招きし、とても有意義な時を過ごすことができました。

西小野師には「復興へ向かう福島において青年がどう用いられてきたか」について講演いただき、依然として震災の爪痕残る福島の現状を伝えていただくとともに、同じ日本に住む苦しむ人たちのために何ができるかという、大きなチャレンジを受ける時となりました。また、講演の中で震災経験を経て現在は東京基督教大学で学んでおられる姉妹が証をしてくださりました。震災を経験し悲しみや痛みの中を通るとともに、主にある喜びや感謝を受け取って来た青年の「生の声」を聴く良き機会となりました。

森山師には「JCE7 開催地の青年たちによる宣教協力」について講演いただき、東海地方で活発に活動がなされている「Mission & U」について、活動理念やこれまでの活動の報告

をしていただきました。教団教派・団体の枠を超えて青年宣教に励む先生方や青年たちのお姿から大きな励ましを受けました。地域で青年宣教の協力体制を築いていくための良いモデルケースを見せていただくことができ、感謝な時でした。

講演と証を聞いた後、小グループで分かち合いの時をもちました。青年宣教に重荷を持っておられる参加者同士で主の恵みとチャレンジを分かち合う活発な議論がなされました。初めての出会いもあり、久しぶりの再会もあり、参加者同士の交わりもとても豊かなものとなりました。今後の青年委員の活動や2023年の日本伝道会議に向けて、この交わりが良い形で保たれ広げられ用いられていくことを願っています。

2022年1月24日(月)には「青年宣教サミット 2022」をオンラインで開催します。テーマは「これからの青年宣教」です。JEA加盟の教団、教派、宣教団体の皆様とともに、青年宣教の情報交換をしネットワークを築くための機会です。皆様ぜひお誘い合わせの上、ご参加ください

JEA 社会委員会

利他という言葉は、しばしば宗教的な文脈と切り離されて使われているように思われます。その結果、利他的な意思というのが薄弱になっているように思われます。そこで本発表では、利他における宗教性の問題について検討した上で、全体主義の問題を乗り越え、犠牲のシステムを正当化せずに、より良い社会を実現していくためには、聖書的な利他が必要であるということを提示したいと考えています。…」(「要旨」より)

なお、本発表では「信教の自由」への直接の言及はありませんが、原発という日米国家の政策に触れている以上、「信教の自由」について大事な課題が示されていると考えます。とにかく、この限られた紙面では紹介し尽くせない内容ですので、是非ご視聴になってください。そして私たち日本の教会と社会の「これまでと、これから」について共に考え、主の御意思にかなう行動へと歩み出してくださいますように、と願っております。また現在別途作成中の「コロナ禍とキリスト教界の課題について」の文書と併せて、3月中には「信教の自由セミナー報

告書」として発行される予定です。そちらも是非お読みくださいますようお願いいたします。



問い合わせと注文は JEA
事務所まで。
(03) 3295-1765
FAX(03)3295-1933
admin@jeanet.org

定価 300 円

第36回 JEA 総会報告

2021年6月7～8日の2日にわたって、第36回 JEA 総会が開催されました。緊急事態宣言が延長される中、全面オンラインでの開催となり、JEA 関係者のみが会場のつま恋リゾートに集まって、配信する形で行いました。オンラインで集まった代議員の皆さまのご協力のもと、議事会や日本福音同盟（JEA）、アジア神学協議会日本支部（ATA/J）、日本ローザンヌ委員会（JLC）による三者覚書調印式、JCE7 プログラムをもつことが許されました。加盟団体の皆さま、代議員の皆さまには多大なご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

特に三者覚書調印式では調印セレモニーの時をもち、ATA 総主事のテレサ・ルア氏（フィリピン）から挨拶と講演をいただきました。世界でも類を見ない、福音派の教会・教団の協力機関、神学教育機関、個人を中心とした宣教運動（ローザンヌ）の協力覚書は、日本ならではのユニークなものとなりました。これから、さまざまな形で覚書を土台とした働きが展開されていきます。神の国の建設のために、さらに用いられていきますようお願いください。



JEA 総会の様子



2年ぶりの交わりのひと時



調印式後の記念撮影

アジア 2021

2021年10月11～14日の4日間にわたって、アジア 2021 大会が開催されました。これは、アジア福音同盟（AEA）、アジア神学協議会（ATA）、アジアローザンヌ委員会（ALC）が協力して開催したアジア地域全体を包括した教会宣教会議です。もともとはアジア 2020 としてタイ・バンコクで開催を予定していましたが、コロナ感染によるパンデミックのためにオンラインでの開催となりました。オンラインとなったため参加の門戸が広く開かれ、アジア 32 カ国、その他の世界各国 18 カ国から 1311 名が登録しました。日本からは 76 名が参加しました。「アジアの教会におけるメガトレンド（大きな潮流）」というテーマの下で、各日、「アジアの教会の一致」、「2021年・アジア教会の現状」、「次世代への働き」、「教会の重心のシフト：欧米から多数派地域へ」というそれぞれの主題が立てられ、講演や応答、また小グループに分かれての分かち合いがなされました。9カ国語の同時通訳があったため、アジア会議にふさわしい各国の教会リーダーが一堂に会する（オンライン上）集会となりました。JEA 総主事が実行委員の一人として、日本同盟基督教団の斎藤謙治師が次世代チームの一員として奉仕をしました。

アジア 2021 日本集会（関西・お茶の水）

アジア 2021 大会に合わせて、10月11日（月）午後、対面形式でアジア 2021 関西集会（会場：関西聖書神学校）とお茶の水集会（会場：お茶の水クリスチャンセンター）が開催されました。これは6月のJEA、ATA/J、JLCの協力覚書に基づく協力的イベントとして、今後の三者の協力と連携について話し合い、何よりも交流を深め、ビジョンを分かち合うために集まりました。コロナ禍の中、神の国の働きは制限されるのではなく、いよいよ広く、深く広がっていくことを期待する集会となりました。今後の展開のためにお祈りください。



アジア 2021
日本集会
@お茶の水



アジア 2021 日本集会@関西



アジア 2021 日本集会@関西

JEA 総務局から

- ◆ 2022年を迎えました。オミクロン株による感染急拡大の中で JEA ニュースの発行となりました。今年もどのような一年になるのかまったく予想もつかない中ですが、全世界を治めておられる主に信頼をして歩みたいと思います。
- ◆ 昨年の JEA 総会、宣教フォーラムの報告が中心となっています。パンデミックの影響は続きますが、福音の前進は止まることはありません。
- ◆ JEA への問い合わせ、ご要望があれば、総主事までメールにて遠慮なくご連絡ください (admin@jeanet.org)。



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース 58 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者：石田敏則 編集者：岩上敬人
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933
email : admin@jeanet.org
郵便振替 : 00150-8-68442 (口座名義 : JEA)